

**卓越大学院プログラム**  
**令和元年度プログラム実施状況報告書**

採択年度	平成30年度	整理番号	1814
機関名	長崎大学	全体責任者（学長）	河野 茂
プログラム責任者	北 潔	プログラムコーディネーター	有吉 紅也
プログラム名称	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

**1. プログラムの目的・大学の改革構想**

○プログラムの目的

グローバル化が進行する中、新興・再興感染症をはじめとする疾病・健康不安が、途上国・先進国等を問わず地球規模課題となり、国際社会が協調して課題解決に取り組む「グローバルヘルス」の推進は、我が国に真の安全と安心、経済発展をもたらすとともに、国際社会における我が国のプレゼンスを高めることにもつながる。グローバルヘルスを推進できる卓越したリーダー育成のニーズは国内外を問わず高まっている。

本申請プログラムは、グローバルヘルス領域でロールモデルとなる多くのトップレベル教員を擁し世界最高峰に位置する英国ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）との緊密かつ有機的なパートナーシップの下、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス（TMGH）研究科を中核母体とした先進的な学位プログラムを構築し、“世界を動かし地球規模の健康課題を解決できる真に卓越したグローバルヘルス人材”を少数精鋭で育成するものである。具体的な卓越人材像は、地球規模で生じている健康課題を現場レベルで深く理解し、その解決に向けて技術や理論を構築できる教育・研究能力を有するとともに、学術的知見をグローバルな政策立案・実行等に結び付ける能力を兼ね備えた実践的・社会的リーダーである。（調書P.5）

○大学の改革構想

本卓越大学院プログラムは、本学の世界的教育・研究拠点の人材育成面における中心戦略に位置付けられ、学内の既存研究科横断的な教員組織を構築する点、当該領域において世界のトップに位置するLSHTMとのJoint PhD 制度を採用する点で、きわめて先進性の高い取組みである。この目標を達成し高度な「知のプロフェッショナル」を育成するために、学長の下に新たに「大学院改革推進会議」を創設し、そのリーダーシップにより、社会のニーズに適切かつ戦略的に対応できる新しい学位プログラムの機動的な構築を可能にする大学全体の大学院システム改革を断行する。改革の主要なポイントは、(1)従来の7研究科に閉じた縦割りの教員組織に横ぐしを入れ生命科学、理工学、人文社会科学の3学域に大括り化すること、(2)自前主義を排し大学の枠組みを超えた他教育・研究機関との有機的な協働による学位プログラム（Joint PhD を含む）の構築を可能にすること、及び(3)予算や人員等の学内資源の本プログラムへの重点配分を可能にし、将来にわたる継続性を担保することである。この大学院システム改革は、本プログラムの目標達成にとどまらず、他領域における高度な知のプロフェッショナル育成のための学位プログラム創設にも波及することで、本学全体の将来構想実現に向けた強力なドライビング・フォースとなる。（調書P.10）

## 2. プログラムの進捗状況

- ① 4月～9月：研究の質の保証及び進捗状況等の適正さを図るために行われるQualifying Examination (QE) 審査基準についてはLSHTMの実例を基に、プログラム責任者の指名により議長を選出のうえ、関連分野を専門とする2名の教員を審査員として審査会を構成し、公開されたプレゼンテーション及び非公開の審査会により研究の卓越性、実現性等を審査できるようLSHTMの運用を活用し基準を設定した。
- ② 4月～3月：3月にシンポジウムを実施し、学内のグローバルヘルスに関する機運を高めるとともに2019年4月にLSHTM の教授2名、4研究科の研究科長を構成員としたグローバルヘルス運営委員会を開催し、卓越大学院プログラム規程、教育研究支援経費細則及び募集要項を作成し、受講者を決定するなどの本格的な活動を開始した。
- ③ 4月～3月：LSHTMの録画講義の共有については、LSHTM側と協議を重ねた結果、ライセンスの取得に時間を要することから、まずは両大学の教員及びLSHTMを主大学とするJD専攻生との連携強化の基盤を構築させることを優先し、LSHTMの本館1階にあるG04にテレビ会議システムを12月に導入した。G04の部屋の利用については、本学関連業務のミーティング等を行う場合、優先的に利用できることから、設置したシステムを活用し、両大学のさらなる連携強化とカリキュラムの充実を図っていくことが期待できる。
- ④ 11月：2019年8月に各研究科から選出された教員をLSHTMウィークに参加をさせ、これまで熱帯医学・グローバルヘルス研究科-LSHTM間が主体の国際連携共同研究であったが、水産・環境科学総合研究科、多文化社会学研究科及び医歯薬学総合研究科とLSHTM間で複数立ちあがった。11月にパイロット版としてLSHTMから出向したTMGH研究科の教授が本学のグローバル連携教員と共同で教育研究に関する勉強会を本学のメインキャンパスである文教キャンパスで実施し、全て英語による意見交換等を踏まえて同4研究科とTMGH研究科の教員との有機的連携へと発展させ、次年度への本格的な実施に向けて基盤をつくった。
- ⑤ 4月～3月：プログラム3年目及び4年目に在籍する卓越大学院学生の殆どが海外を基盤として研究を実施しており、本学の海外拠点やLSHTMの研究サイトを活用し、データ、サンプル収集を行う過程において、本学教員をはじめ、連携先教員及び現地スタッフとの連携・協力のもと、課題とする研究テーマに沿って実践的かつ効率的な研究指導が行われた。また、LSHTMと長崎大学からなる2名以上によるチーム指導を実質的なものとするため、また、喫緊の課題に対応するフィールドリサーチに資するために各チーム指導教員に当該プログラム学生の研究を支援する研究支援経費を配分した。
- ⑥ 4月～3月：昨年度の教授2名、助教1名の雇用に加え、2019年度に准教授1名及び助教2名をクロスアポイントメントにて追加で雇用し、教育研究指導体制を強固にした。また、今年度は4名をLSHTM等から外部招聘し、授業、スペシャルレクチャー及び研究指導等を実施した。
- ⑦ 4月～3月：6月に東京で開催した「第2回長崎大学グローバルヘルスフォーラム」では、LSHTM学長の基調講演をはじめ、グローバル企業による展示、ポスター発表、意見交換会が開催され、12社、2法人の展示ブースを中心に産官学に一般の方も加わり、活発な意見交換会が実施された。3月にはLSHTMの教授らを講演者として招き、国立国際医療研究センター（NCGM）の若手研修医にターゲットを絞った講習会及び卓越大学院プログラムの外部評価委員会が新型コロナウイルスCOVID19の影響で中止となったが、同月にCOVID19の特設サイトを設置し、また、JD専攻生のCOVID19に関する活動の支援を行うなど、卓越大学院プログラムの一環としてCOVID19対策に資する支援活動を開始した。
- ⑧ 4月～3月：7月～11月にかけてグローバルヘルスプログラム運営委員会で決定した募集に関する規程、教育研究支援経費に関する細則に基づいて、卓越大学院プログラム2期生の募集を開始し、熱帯医学・グローバルヘルス研究科及び医歯薬学総合研究科の博士後期課程相当の学生12名が合格した。他の奨学金給付を受けていない卓越大学院プログラムの正規学生は、教育研究支援経費20万円/月を支給し、候補学生については10万円/月を支

給している。

- ⑨ 4月～3月：4月～10月 医歯薬学総合研究科所属のフルタイムの職員の中から英語力を有した職員を卓越大学院プログラムの事務補佐員として雇用し、リーディング大学院の実績を持つ研究との連携により卓越大学院プログラムの円滑な運営を図った。また、引き続き、LSHTMで学士を取得した高い英語力をもつ事務補佐員の雇用を更新した。

#### 【令和元年度実績：大学院教育全体の改革への取組状況】

##### 本事業を通じた大学院教育全体の改革への取組状況、及び次年度以降の見通しについて

4月から2020年1月にかけて6回のグローバルヘルスプログラム運営委員会を実施、また、長崎大学-ロンドン大学卓越合同学務委員会／長崎大学グローバルヘルスプログラム教育研究支援経費受給候補者専攻委員会を9月及び10月に実施し、本プログラムの体制構築及び委員の連携強化へと繋げる実績を残せた一年となった。次年度の見通しについては、学長が令和2年1月より、「長崎大学は“地球の健康”のために貢献する大学」を学長コンセプトとして掲げ、大学全体として地球の健康維持に貢献するため、様々な研究領域を横断しながら、新たな研究分野の開拓、発展へと繋がる試みを教員や学生へ呼びかけ情報発信を開始した。本学の卓越大学院プログラムは、グローバルヘルス領域に特化するプログラムとなることから、グローバルヘルスの領域から新たなスローガンである「プラネタリーヘルス」の維持に貢献できる卓越する人材の育成を目標に、新たな展開を試みる若手研究者へも本プログラムへの参加を募り、次年度においても大学全体でグローバルヘルス分野における研究領域の発展及び連携体制の拡大を進める。